2021年12月11日
第97回LET中部支部研究大会

日本の小・中学生はどのような英語知識をどのように発達させているのか

－第二言語習得研究における暗示的・明示的知識の観点から－

内野　駿介
uchino.shunsuke@s.hokkyodai.ac.jp

国立大学法人
北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

なぜ文法知識に注目するのか

- 文法知識＝**言語を運用するために不可欠な文の規則に関する知識**
  - ➢言語習得において中心的な役割を果たす (Nassaji, 2017; Loewen, 2020)
  - ➢（明示的学習をしなくても）**言語使用**を通して獲得する (Bybee, 2008)

日本の小学校英語教育と文法知識

- ➢「(基本的な表現に) 繰り返し触れることによって**英語の語順**に気付かせ，その**規則性を内在化**させたり，自ら話したり書いたりする中でどのように**語と語を組み合わせ**れば自分の伝えたいことが表現できるのかということに意識を向けさせたりするようにする。」(文部科学省, 2017: 92)
- ➢「児童は単にまるごとの表現を**未分析のまま聞いたり真似たりしているわけではない**」(浦田他, 2014: 247-248)
- ➢小学校段階では**定型表現に依拠した暗示的知識**の獲得を目指すべき (板垣, 2017)

小学校英語教育の特徴

- **暗示的な学習**が中心
  - ➢教科書本文や「文法のまとめ」のページはない
- **音声での学習**が中心
  - ➢教師の語りかけやモデルの模倣が学習の中心
- **トップダウン的な学習**が中心
  - ➢表現の丸覚えからスタートし，徐々に分析的な理解が進む
  - ➢単語を1つずつ組み合わせて構文しているわけではない

明示的な文法学習をしていない小学生であっても
表現を**丸覚えしているわけではない**

- ➢聞いたことのない表現の創造的な発話
- ➢既習表現との混同によるエラー

文法知識をもとに
英語を運用しているはず！

小学生の文法知識に関して明らかにしたい点

① 全ての文法項目について暗示的知識が優勢なのだろうか

- 体験を一般化して明示的理解に至りやすい文法項目はあるのか

② 英文の内部構造の分析的な理解はどの程度進んでいるのだろうか

- 文中のどの部分が固定でどの部分が可変なのかについての知識
  （＝英文をどのように区切り，どの部分をチャンクとして認識しているのか）
- 文中の可変部にどのような語句が入り得るかについての知識

③ 学年が上がると文法知識は量的・質的にどのように変化するのか

暗示的か，明示的か

内野 (2018, 2019)

＜暗示的知識＞

規則に基づいた**言語運用は可能**だがその規則について言葉で**説明できない**

例）「ここはtheではなくてaな気がする」

＜明示的知識＞

規則の内容を言葉で**説明できる**

例）「主語が三人称単数で現在時制のときは一般動詞にs/esをつける」

暗示的か，明示的か

内野 (2018, 2019)

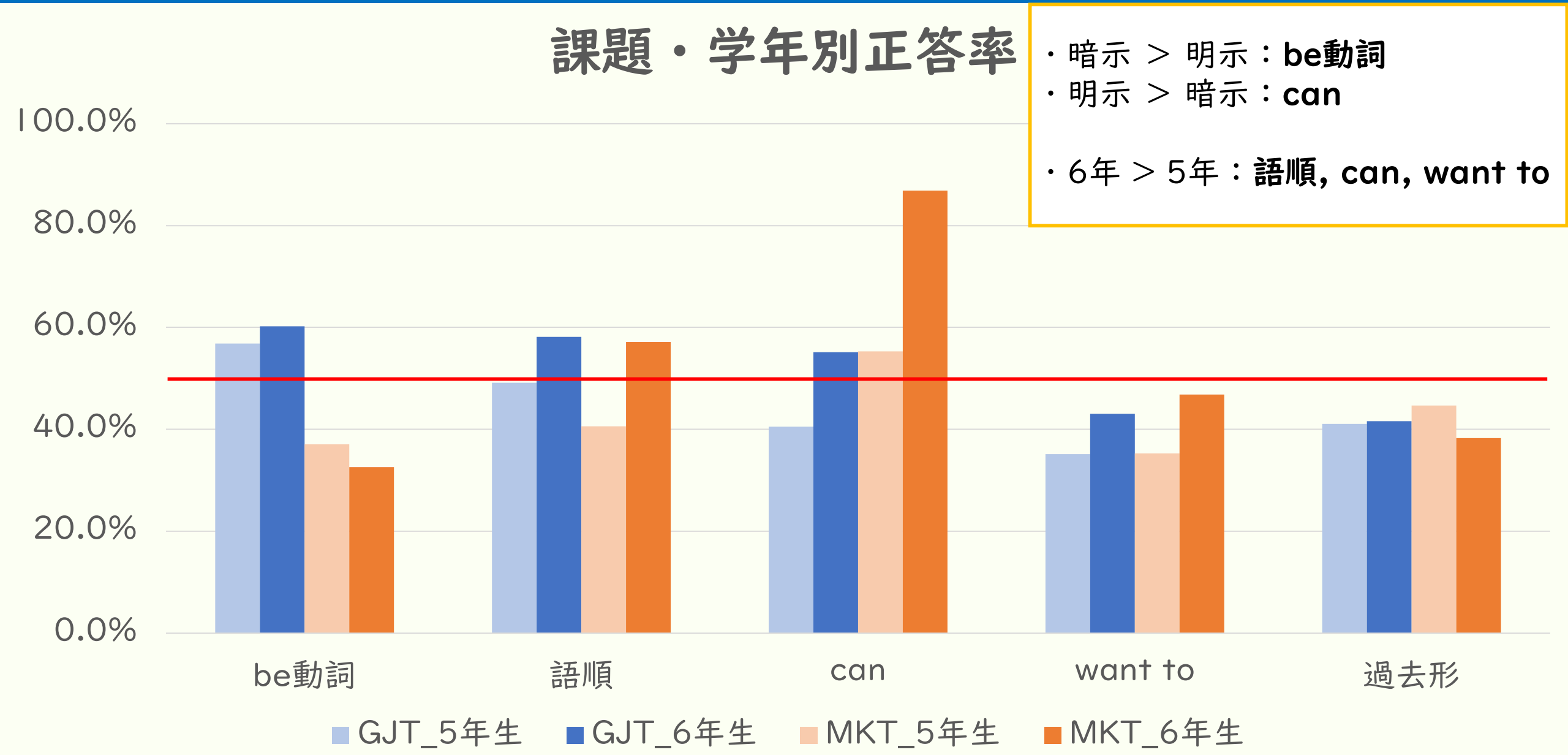
- 公立小学校**5**校の**5, 6**年生　計**334**名
- **2018**年**2**～**3**月 **(2017**年度末**)** に調査

- 暗示的知識　…　時間制限付き文法性判断課題 **(timed GJT)**
- 明示的知識　…　選択式メタ言語知識課題 **(MKT)**　で測定

- **5**つの文法項目
  - **be**動詞　主語との一致
  - 語順　**SVO**か**SOV**か
  - **can**　**can V**か**V can**か
  - **want to**　**want to**か**want doing**か
  - 過去形　過去形か原形か

暗示的か，明示的か

内野 (2018, 2019)



・暗示 ＞ 明示：**be動詞**
・明示 ＞ 暗示：**can**

・6年 ＞ 5年：**語順, can, want to**

暗示的か，明示的か

内野 (2018, 2019)

＜明示的知識＞

- **形式的・機能的複雑さ** (conceptual clarity) や**メタ言語の複雑さ** (metalanguage) が獲得の容易さに影響 (Ellis, 2006)
- **can**…◎　**be動詞**…△

＜暗示的知識＞

- **頻度** (frequency), **気づきやすさ** (saliency), **機能的価値** (functional value), **規則性** (regularity), **処理可能性** (processability) が獲得の容易さに影響 (Ellis, 2006)
- **6**年生の正答率が**50%**以上なのは**be動詞**，**語順**，**can**

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

“What sport do you like?”
いくつに切れる？　どこで切れる？

小学5年生：

3つに切れる

「どこで切れるの？」

What / **sport** / do you like?

food, subject, fruitなど
他の語で置き換え可能

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

用法基盤モデル (usage-based model)

「人はまずは具体的な場面や状況の中で実際の用法（用例）を**全体的なひと塊**として繰り返し聞いたり使用したりすることによって場面や状況と形式と意味とを結びつけ，徐々に**類似した用法からパタンを抽出**できるようになり，. . . 最終的にはそれまで耳にしたことのない表現を状況や場面に応じて適切に，かつ**創造的に産出できる言語能力**に到達する」 (村端・村端, 2020: 149)

① 表現全体を**丸ごと**運用

② 表現の一部を**入れ替えて**運用

③ 抽象的な**文法規則**に依拠した言語運用

What sport do you like?

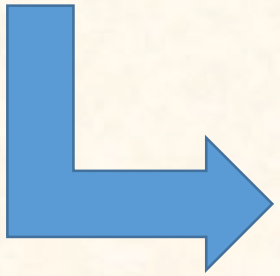
What X do you like?

Wh- Noun Aux Subj Verb

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

表現全体を**丸ごと**（非分析的に）運用する段階



表現の一部を**入れ替えて**運用する段階

表現の内部構造の理解

① 表現のうち**固定部，可変部**はそれぞれどの部分か
(＝チャンクとして認識されやすいのはどの部分か)

② 可変部には**どのような語句が入り得るか**
(規則性をどの程度**明示的に**説明できるか，を含む)

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

- 公立小学校**1**校の**5, 6**年生
- **2019, 2020**年**2**月 **(2018, 19**年度末**)** に同様の調査を**2**回実施
- **2**度データの得られた**71**名のデータを連結して分析

- **What [a] do/can [b] [c]?**の**a**～**c**に入り得る語についての知識を調査

- 文法性判断課題 **(GJT)**
- 空所補充課題 **(FBT)**
  - ➢英文の空所に入り得る語を日本語の選択肢から選ぶ
  - ➢英文の空所に入り得る語の共通点を日本語で書く

④ What pet do you [ ]?

ア．飼っている

イ．飲む

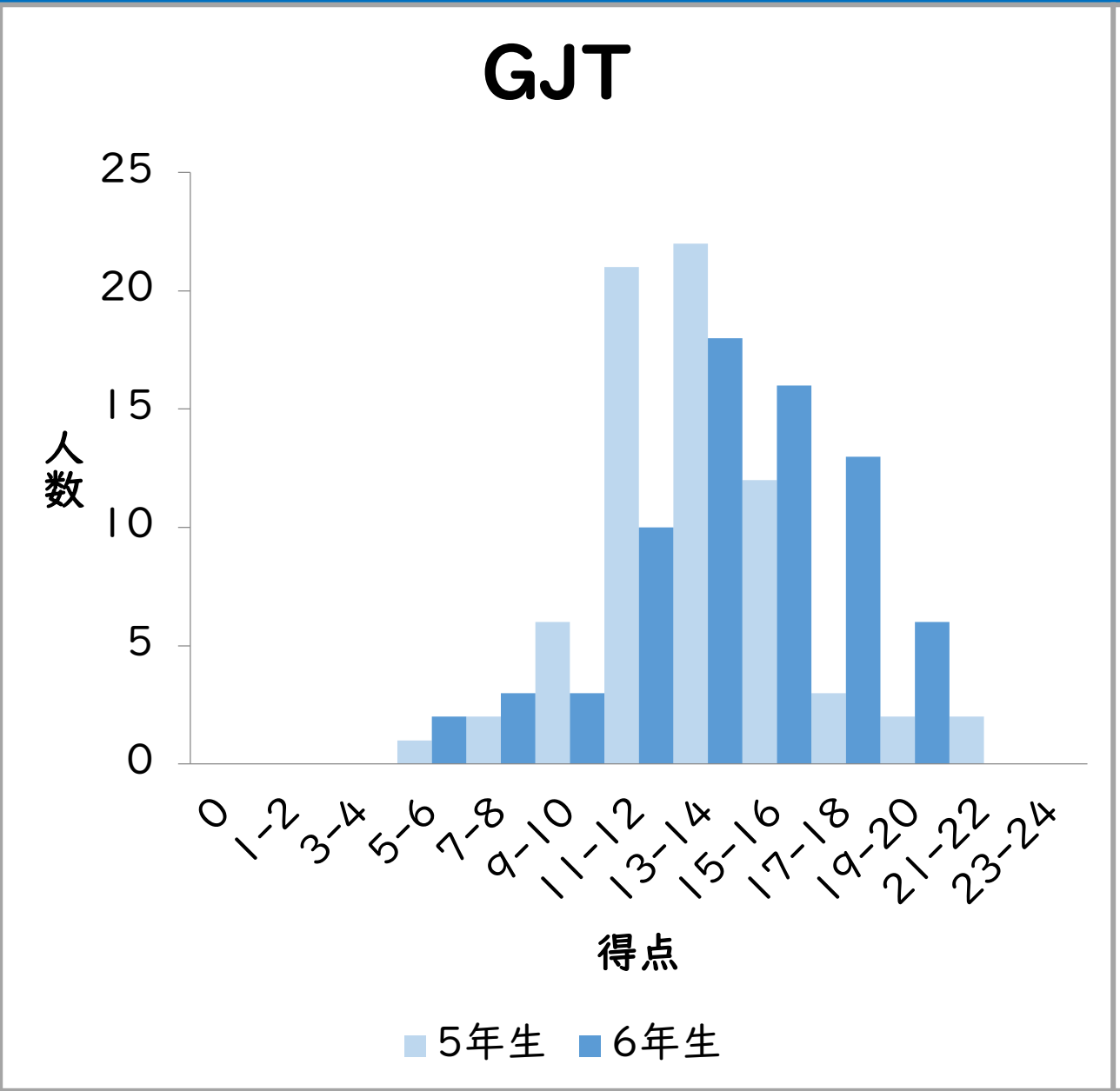
ウ．ほしい

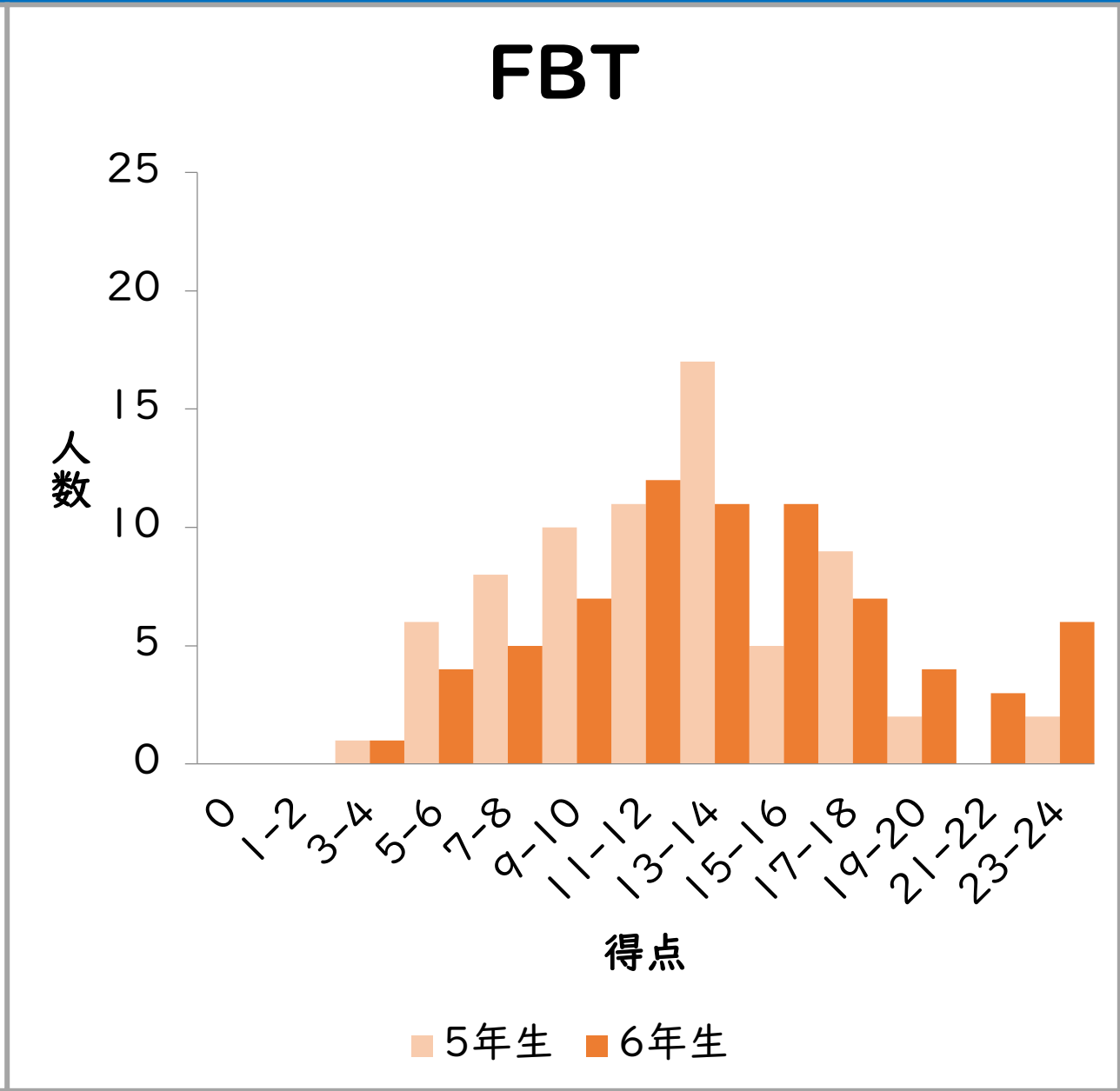
エ．読む

オ．わからない

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)





文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

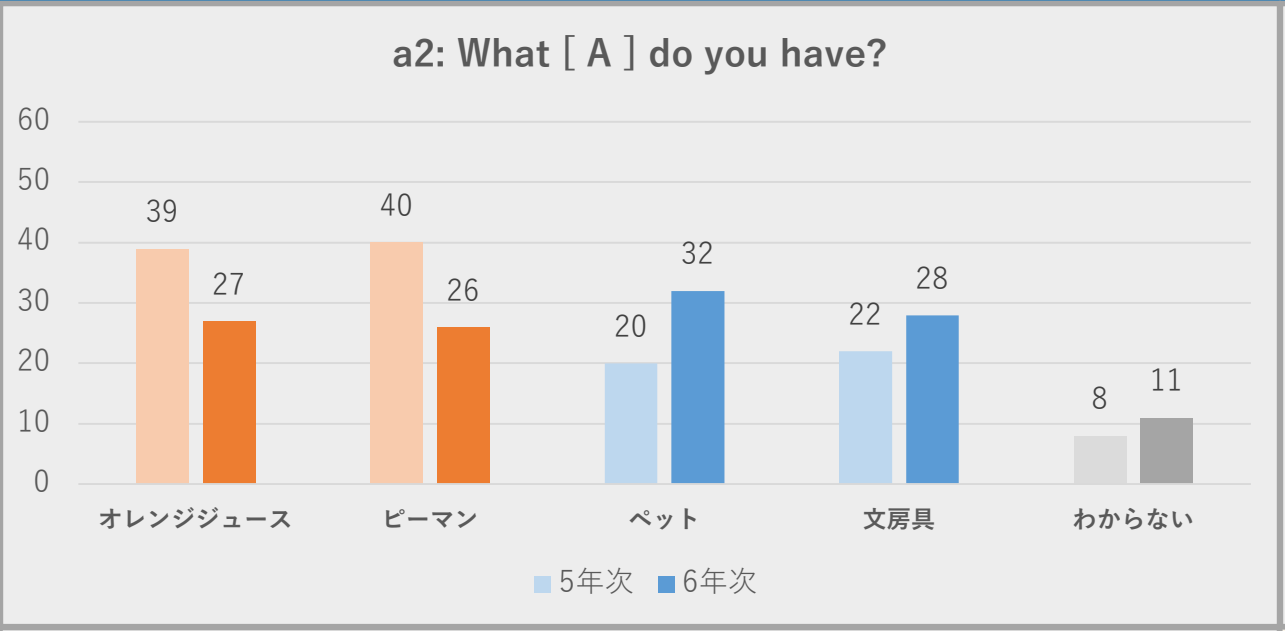
FBT

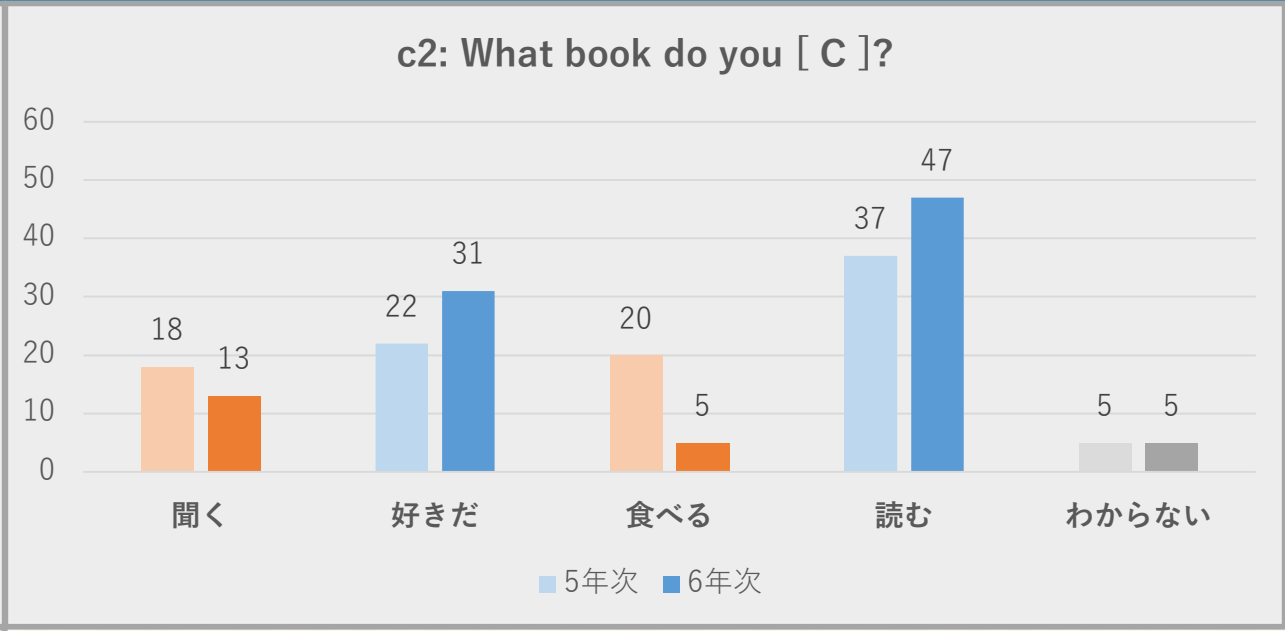
What [a] do/can [b] [c]?

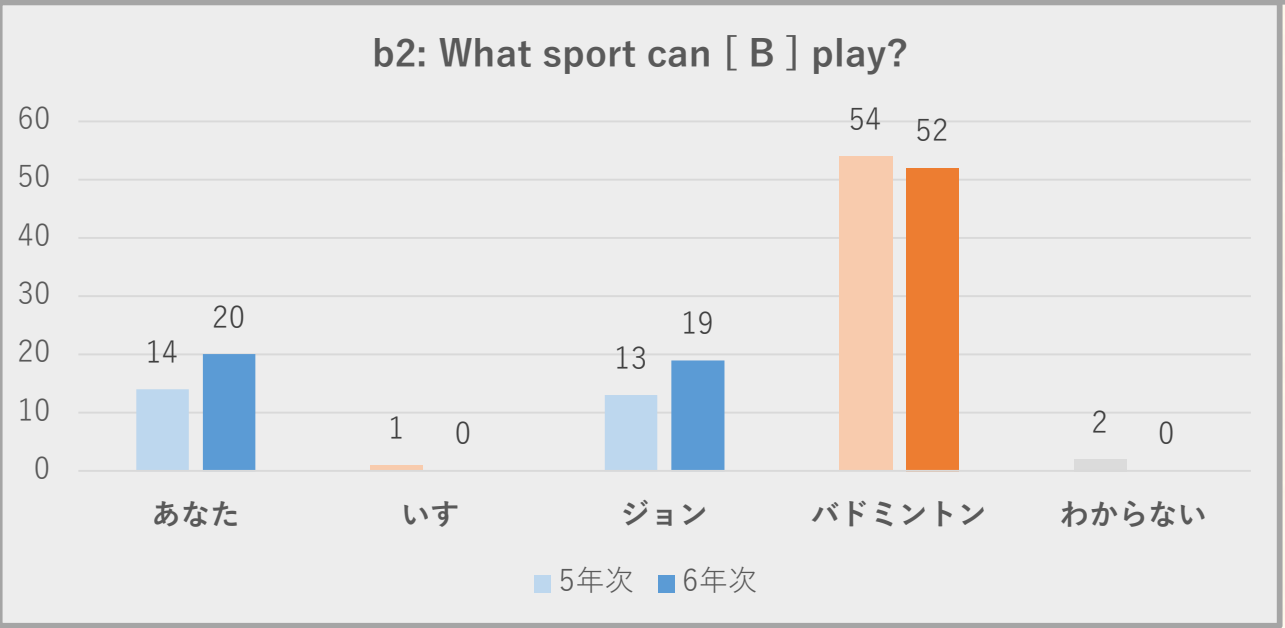
空所	課題文	δ	M (4点満点)		
			5年次	6年次	伸び
[a]	a1: What [ ] do you like?	**-0.31**	2.73	2.93	0.20
	a2: What [ ] do you have?	**0.61**	1.25	1.79	**0.54**
[b]	b1: What food can [ ] cook?	-0.01	1.69	1.83	0.14
	b2: What sport can [ ] play?	-0.22	1.55	1.82	0.27
[c]	c1: What pet do you [ ]?	-0.14	2.86	2.99	0.13
	c2: What book do you [ ]?	0.07	2.13	2.68	**0.55**

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)







- [A] 錯乱肢の選択数が減って正答肢の選択数が増えた (他の項目も同様)
- [B] 「バドミントン」の選択数が多いまま
  - **sport**とバトミントンの関係性
- [C] 「食べる」が大きく減っている
  - **bookと空所に入る語の関係性**の理解が進んだのでは

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

- FBT… 正答肢を選んだ数＋錯乱肢を選ばなかった数の4点満点
  各問で4点だった参加者の自由記述を分類

文の内部構造の理解

内野 (2020, 2021)

空所	カテゴリ (k)	分類された回答の例
[a] what名詞	**物の種類／まとまり** (4)	いろいろな種類がある物／物の種類を表す言葉
	物／生き物 (7)	物を表す言葉／物や生き物（ペット）
	類似の表現との混同 (7)	何を持っているかを表す言葉
		どのくらい持っているかを表す言葉
	異なる動詞との混同 (6)	欲しいもの／好きなもの
[b] 主語	**人／人物** (31)	人物を表す言葉／料理ができるかを聞く人
	文中の他の語の意味 (2)	何が得意かを表している／食べ物
[c] 動詞	ペット／動物 (20)	ペットについて／動物に関すること
	動き／動詞の具体例 (14)	動きを表す言葉
		飼っているか，欲しいかなどの言葉
	人に聞く／答える (5)	聞く言葉／聞かれたことに答える言葉
	感情／気持ち (4)	感情を表したり実際のことを表す言葉
		気持ちを表す言葉
	事柄／物事 (4)	事柄を表す言葉／物事を表す言葉

まとめ

① 全ての文法項目について暗示的知識が優勢なのだろうか

- **明示的知識の習得度が高い文法項目／空所もある** (can, 主語位置に入る語)
- 一般に，規則が単純で言葉で説明しやすい項目は明示的知識が習得しやすい
- 暗示的知識も明示的知識も，概して5年生よりも6年生のほうが習得度が高い

② 英文の内部構造の分析的な理解はどの程度進んでいるのだろうか

- 空所にもよるが，What [a] do/can [b] [c]?の内部構造は**5年生でもある程度理解が進んでいる。6年生になるとさらに理解が進む。**
- 同じ文構造でも英文に含まれる単語によって正答率に差がある。小学校段階で「文法知識」を純粋に測定することの困難さを示している。

酒井先生・鈴木先生に伺いたい点

- 小学校段階で児童が獲得している文法知識を**中学校段階で生かす**には，中学校での指導においてどのような点に留意すべきでしょうか。

- 中学校で明示的な文法指導が行われることを念頭に置いた場合，**小学校段階でどのような知識を身につけておけばよいのでしょうか。**

  またそのために，小学校での指導においてどのような点に留意すべきでしょうか。

謝辞

本発表の一部はJSPS科研費19K13255 (若手研究) の助成を受けて実施したものです。

引用文献

Bybee, J. (2008). Usage-based grammar and second language acquisition. In P. Robinson & N. C. Ellis (Eds.), *Handbook of cognitive linguistics and second language acquisition* (pp. 216-236). Routledge.

Ellis, R. (2006). Modeling learning difficulty and second language proficiency: The differential contributions of implicit and explicit knowledge. *Applied Linguistics*, *27*, 431-463.

板垣信哉 (2017). 「小中高等学校の英語教育の接続—定型表現依存型運用能力から文法規則依存型運用能力へ—」『宮城教育大学外国語研究論集』*9*, 21-31.

Loewen, S. (2020). *Introduction to instructed second language acquisition* (2nd ed.). Routledge.

村端五郎・村端佳子 (2020). 「用法基盤モデルの言語習得観に基づいた小学校英語の展開」*JES Journal*, *20*, 148-163.

Nassaji, H. (2017). Grammar acquisition. In S. Loewen & M. Sato (Eds.), *The Routledge handbook of instructed second language acquisition* (pp. 205-223). Routledge.

文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説　外国語活動・外国語編』

引用文献

内野駿介 (2018). 「小学校卒業時の児童の文法知識—文法性判断課題，メタ言語知識課題の結果から—」『第18回小学校英語教育学会 (JES) 長崎大会要綱集』104.

内野駿介 (2019). 「小学5, 6年生の文法知識—文法性判断課題，メタ言語知識課題の結果から—」*JES Journal*, *19*, 162-177.

内野駿介 (2020). 「小学6年生の1年間における児童の文法知識の発達—プレハブ表現の可変部に関する知識に着目して—」『第20回小学校英語教育学会 (JES) 中部・岐阜大会要綱集』81.

内野駿介 (2021). 「小学6年生の文法知識の発達—文中の入れ替え可能な語に関する知識に着目して—」*JES Journal*, *21*, 143-158.

浦田貴子・柏木賀津子・中田葉月・井出眞理 (2014). 「コミュニケーション能力の素地から基礎へと結ぶ小中連携リンクユニットの創造—事例学習と規則学習の繋がりを通して—」*JES Journal*, *14*, 244-259.

ご清聴ありがとうございました。

内野　駿介
uchino.shunsuke@s.hokkyodai.ac.jp